富士見
郷土研究
発行　令和7年3月31日
富士見郷土研究会
印刷　朝日印刷工業株式会社

戦後80年を迎える 忠霊塔と追悼式典

会長　石田和男

令和7年は戦後80年を迎えます。戦後とは昭和20年8月の終戦から数えます。それ以前は昭和6年の満州事変、12年の日中戦争、そして16年の太平洋戦争と戦争が連続して続いていた時代でした。

これらの戦争に富士見地区から従軍した人は1469人、その内戦死者は439人に達しました。(『村誌』) これらの多くの戦死者を慰霊するために忠霊塔が建立されました。忠霊塔とは、国のために戦死した人、犠牲になった人達を慰霊・顕彰するために市町村が建てたものです。

富士見の忠霊塔は、昭和36年に石井珊瑚寺の南側の丘に建立されました。題字は米倉大謙、戦没者名は星野義輝の書です。塔には日清・日露戦争から太平洋戦争までの戦没者と戦争犠牲者473人の遺骨が納められ、その名前が刻まれています。この丘には従軍記念碑や興源の碑など、戦争関連の記念碑が建てられています。

富士見地区の戦没者及び戦争犠牲者の慰霊祭は、昭和27年度から毎年開催されています。村と社会福祉協議会、郷友会（兵役関係者の会・昭和30年設立）の共催で寺院を祭場として行われました。忠霊塔建立後は、その地で毎年4月、桜花の下で開催されるようになりました。

遺族をはじめ関係機関・団体等約800名が参列して盛大に行われ、英霊の顕彰と遺族の慰問、永遠の平和を祈念しました。

その後、郷友会は解散され、また前橋への合併等もあって、社会福祉協議会の主催で公民館において開催されるようになりました。令和になって「富士見地区戦没者追悼式」と名称も変更されました。

今年度の追悼式には遺族や関係団体に加えて、初めて地元の中学生が参列しました。

富士見中の生徒が参加した戦没者追悼式

参列に当たり、小池秀明校長先生の理解を得て、生徒会役員を中心に平和学習をすることになりました。その講師依頼が郷土研究会にあり、立場上、私が「戦時中の富士見の人々のくらしと前橋空襲」というテーマで講話をさせていただきました。

講話終了後、講話の感想を踏まえて「平和の誓い」というテーマで全員に感想文を書いて貰い、推敲して代表者が追悼式典で発表することにしました。

当日は、木暮英夫社会福祉協議会長の式辞、来賓の追悼の辞、参列者の献花などに続いて、中学生徒を代表して石坂理緒奈さんが「平和の誓い」を立派に読み上げてくれました。

参列者から「若い中学生の参加に感銘した」「戦争犠牲者のことを引き継いでいくことができる」等の感想がありました。

戦争を知らない世代に戦没者を追悼し平和を祈念することの大事さを、少しでも引き継いで行けたように思えました。